コーネル大学法科大学院クラークプログラム東アジアの法と文化研究所
東京大学社会科学研究所

共催国際会議

法と経済における希望

場所　国際文化会館
日時　2008年10月14日
　　午前10時－午後5時

Cornell University
Law School
Lawyers in the Best Sense

法と経済における希望

希望の社会的・国際的分配において法と市場が果たす役割を探求する学際的会議

会議参加者

グレゴリー・アレクサンダー（コーネル大学法科大学院A.ロバート・ノール教授）
玄田有史（東京大学社会科学研究所教授）
石川博康（東京大学社会科学研究所准教授）
春日直樹（大阪大学大学院人間科学研究科教授）
小森田秋夫（東京大学社会科学研究所長）
宮崎広和（コーネル大学人類学科准教授）
アナリース・ライルズ（コーネル大学法科大学院クラーク極東法学教授）
阪口正二郎（一橋大学大学院法学研究科教授）
酒井直樹（コーネル大学アジア研究学科・比較文学科教授）
スチュアート・シュワブ（コーネル大学法科大学院長）
シャンタル・トーマス（コーネル大学法科大学院教授）
宇野重規（東京大学社会科学研究所准教授）

コーネル大学法科大学院クラークプログラム東アジアの法と文化研究所は、学術的・文化的枠組を超えた多様な分野の研究者間の対話と交流、そして協力を育み、現代社会における数々の社会的関心事に対して問題提起し、その考察に新しい光を投げかけることを目指しています。

東京大学社会科学研究所の使命は、歴史と国際比較の観点から、日本と世界が社会科学的解明を求めている重要問題を総合的に研究することです。

両研究所の研究ネットワークを連携し、法と社会科学の学際的諸問題をめぐる新しくより深い共同研究のかたちを探求します。

会議についての詳細情報・参加申し込みは、下記のウェッブサイトにアクセスしてください。

http://project.iss.u-tokyo.ac.jp/hope/symposium/081014_conference_j.html

Cornell University
Law School
Lawyers in the Best Sense

Clarke Program in East Asian Law and Culture
Myron Taylor Hall, Ithaca, NY 14853